



## ハンガー泥棒

浅野 純次

(経済倶楽部理事長)

▼中国全土で予選を勝ち抜いた大学生20人による日本語弁論大会が天津であり、その審査員をしてきました。事前に与えられていたテーマは全員が準備万端、完璧な文法と発音で甲乙つけがなかったですが、直前(10分前)にテーマ「中国の花、日本の花」を知らされての3分間即席スピーチは、日本人でも難しいところを、当意即妙のスピーチが多く、感心しました。上位10位まで全員、女で中国も女子学生上位です。

▼北京へ「神風」バスで戻り、一泊680円(8800円)が「紹介」で半値になった準官営のホテルに着い

たのが夜11時近く。翌朝の予定を相談したため部屋に入ったのは12時を回っていましたが、入ってびっくりまず20坪もの広間があり、ワインバーも(もちろん空っぽ)。左右に15坪ずつの部屋があつてそれぞれツインベッドと洗面とバスが…。一人には大きすぎるスイート風ですが、でもどちらのバスも洗面もお湯が出ない。遅かったのであきらめ、寝てしまいました。

▼朝、スーツをハンガーから取るうとしたら金具が抜け木の部分が落下したので、部屋の割にちゃちなを使っているなどびっくり。バイキングの朝食もひどくてギョーザ、饅頭、ふかし芋、おかゆ、ゆで卵ですべて。コーヒーもなく、従業員はテーブルに座っておしゃべりに熱中、まさにソフト欠落のサービスマン産業でした。

▼ともあれタクシーで北京郊外の盧溝橋へ。1937年、日中両軍が衝突し「中国人民による抗日戦争の幕が切つて落とされた」(入場券裏面の説明) 歴史的な場所ですが、誰でも橋を渡れた昔とは一変、20元

(2600円)の入場料をとる「名所」になっていました。下を流れる永定河も小さな川だったのが、下流をせき止めて堂々たる「大河」に変貌。よく見ると流れない永定河ですが、文化旅遊局もなかなかやります。

▼ホテルに戻りチェックアウトしたときに事件が発生しました。同行のF女史が「この人の部屋、お湯が出なかったのよ」と軽い調子で言ったところ、フロントの責任者(30代前半?の美人)の顔つきが一変。すぐスタツフに部屋へ行かせてそれが事実だと知ると「昨日のうちに知らせば対応したのに、それをしなかったほうにこそ責任がある」と私を非難し始めました。深夜なので遠慮したのだと言つと、「それなら今頃、文句を言うのは間違つている」と、目を吊り上げ夜叉のごとき表情でどなり返し、舌戦が続きました。

▼憤慨するFさんをなだめて立ち去ろうとしたとき、とんでもないことを言われました。「あんた、部屋のハンガーをどこへやったのか」。一瞬、啞然どしました

泥棒扱いされたたあつては黙って引き下がるわけにはいきません。でも情報が間違ひだったことがわかつたらしくしばらくして言い分を変えてきました。今度はい「ハンガーを壊した」というのです。朝の一件を思い出し「壊れたのであつて、壊してなどいない」と反論しましたが、どこまでも水掛け論です。まるで子供のけんかですが、サービスマンの最前線にいるいい歳をした才女(たぶん)が目玉を三角にして客を泥棒扱いする。中国のソフト産業の実態を垣間見ました。

▼ハンガーは冤罪でしたが、もし部屋からプチャオールでも記念に持ち出していたら、警官が呼ばれまさに泥棒騒ぎになっていたかもしれない。同行の中国滞在数十年のHさん解説して曰く、「エリート」の女は社会的にも家庭内でも力が強く、世界でいちばん面子にこだわる。同性に文句を言われたので余計に興奮したのでらう。要するに虎の尾を踏んでしまったわけだね」と。うそのようなほんとの話ですが、いい体験をしました。